

【機関情報】

# 社会教育

ビブリオバトル  福島県大会



令和2年11月28日(土)令和2年度 ふくしまの未来をひらく読書のカプロジェクト  
情報発信プロジェクト「第6回ビブリオバトル福島県大会(中学生・高校生)」より



読書活動支援者育成事業研修会



子供の発達段階に応じた読書活動の推進

## CONTENTS

- ◆ 特集 . . . . 1  
第四次「福島県子ども読書活動推進計画」について
- ◆ 論 説 . . . . 3  
「子どもたちの読書環境のすそ野を広く豊かに」  
福島県子ども読書活動推進会議委員長・福島大学名誉教授  
高野保夫氏
- ◆ 輝け！社会教育 . . . . 4  
猪股 純一 氏（南会津町）、酒井 哲朗 氏（伊達市）  
会津若松市湊公民館、福島市吉井田学習センター  
中郷小学校父母と教師の会（三春町）  
朝日小学校父母と教師の会（只見町）  
白河市立小田川幼稚園 PTA  
天栄村地域学校協働本部  
大戸地域学校協働本部（会津若松市）  
泉崎図書館  
朗読劇サークル アグリーダックス（会津若松市）
- ◆ 令和2年度 社会教育関係各種表彰受賞 . . . . 10  
令和3年度 福島県社会教育施設行事予定 . . . . 10

## 第四次「福島県子ども読書活動推進計画」

### 基本理念 「ふくしまの未来をひらく 読書の力」

福島を未来をひらく全ての子どもが読書の楽しさを実感し、生涯にわたって望ましい読書習慣が確立できるよう、学校、家庭、地域がそれぞれの役割や責任を明確にし、社会全体で子どもの読書活動を推進します。

#### 基本方針1 子どもが読書に親しむ機会の充実のために

乳幼児期から家庭を原点として、学校や地域等において本に親しむ機会の充実を目指します。また、子どもが生涯にわたって望ましい読書習慣を身に付けることができるよう幼稚園、保育所、認定こども園、小・中学校（義務教育学校を含む）、高等学校、特別支援学校において、それぞれの発達段階に応じて読書活動の推進に向けた特色ある切れ目のない取組が展開されることを目指します。

##### ＜推進の方策＞

- (1) 子どもの発達段階に応じた取組の推進
- (2) 学校等における子どもの読書活動の推進
- (3) 家庭における子どもの読書活動の推進
- (4) 地域における子どもの読書活動の推進
- (5) 支援を必要とする子どもの読書活動の推進



#### 基本方針2 子どもの読書環境の整備と充実のために

子どもたちが、あらゆる機会とあらゆる場所において読書に親しむことができる環境の整備の推進を図ります。また、公立図書館や学校図書館等の機能の充実、子どもの読書活動を支える人材の確保や資質向上と更なるネットワークの構築を図ります。そうしたことを踏まえ、学校、家庭、地域、関係機関、団体等が連携・協力する体制を構築し、子どもの読書活動の推進に向けた環境の整備を進めます。



##### ＜推進の方策＞

- (1) 図書館の整備・充実
- (2) 学校図書館の整備・充実
- (3) 連携・協力体制の構築

#### 基本方針3 子どもの読書活動についての理解の促進のために

子どもの読書活動の推進のために、読書活動の意義や重要性についての理解を広く普及させるための取組や広報を充実していくことが必要です。

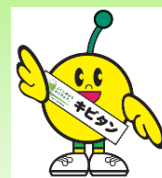
そこで、子どもの読書活動の重要性について理解が深まるよう、実践事例等の情報提供や、優れた取組の奨励等、より一層の普及啓発活動に努め、県全体として子どもの読書活動の推進が図られることを目指します。

##### ＜推進の方策＞

- (1) 推進のための普及や啓発
- (2) 子どもの読書活動に関する情報の収集や提供
- (3) 優れた取組の奨励と優良図書等の普及



生涯にわたって望ましい読書習慣を確立するためには、子どもの発達段階に応じた読書活動が切れ目なく行われることが重要です。乳幼児期から家庭を原点として、学校や地域等において本に親しむ機会の充実を目指します。



## 子どもの発達段階に応じた読書活動の主な取組

発達段階	乳幼児期	小学校期	中学校期	高校期
読書推進の役割	楽しむ読書 調べる読書 考える読書			
保育所 幼稚園 認定こども園等	読み聞かせ 図書館環境の整備 保護者への啓発・家読			
小学校 中学校 義務教育学校 高等学校 特別支援学校		読み聞かせ・一斉読書 友人同士の関わりを通じた読書への動機付け ブックトークなど ビブリオバトルなど 子ども司書など 読書コンシェルジュなど 図書館環境の整備 保護者への啓発・家読		
学校図書館		図書館環境の整備 読書相談・レファレンス 児童への啓発 授業サポート 公立図書館等との連携		
家庭	読み聞かせ 家読 図書館等の利用 読書関連事業への参加 ブックスタート どんくしょスタート			
公立図書館	おはなし会など 児童室の充実 保護者への啓発 読書相談・レファレンス ブックスタート どんくしょスタート			
公民館 児童館	図書コーナーの充実 おはなし会など 保護者への啓発 ブックスタート			
ボランティア	読み聞かせ 公立図書館等の環境整備 ブックスタート 学校図書館の環境整備			

詳しくは、第四次「福島県子ども読書活動推進計画」をご覧ください。

HP <https://www.pref.fukushima.lg.jp/site/edu/keikaku.html>



# 論説「子どもたちの読書環境のすそ野を広く豊かに」

## 福島県子ども読書活動推進会議委員長 福島大学名誉教授 高野 保夫 氏

令和2年度から5年計画でスタートした福島県「第四次子ども読書活動推進計画」の新たな特徴と課題について考えてみたい。

第一の特徴は、乳幼児期から思春期に至るまで読書活動を切れ目なく積み上げ、生涯にわたる望ましい読書習慣の形成をめざしていることです。従来は、小中学校や高校を中心とした読書教育に比重が置かれがちでしたが、視点を変え、いわゆるピラミッドの基底部分の乳幼児期から絵本・本に親しむ機会を手厚く準備することを重視しています。その後は、成長に応じて「楽しむ読書→調べる読書→考える読書」へと段階的に発展させ、読書活動の質を高めようという考え方です。そこから中高生の不読率の低減にどうつなげるか、またそのときの課題は何かが問われます。

昨年末、東京大学の発達保育実践政策センターを中心に「デジタル時代における絵本・本の価値を探る」というテーマでシンポジウムが開かれました。科学的手法や外国との比較調査等をもとに幼児の読書生活のあり方をていねいに探り、発達の初期段階での課題解明をめざす新しい動きです。それらの最新の研究成果や追究手法を第四次推進計画の中にかに取り込み、福島県の読書活動の質の向上にどう生かすかが課題になります。

第二は、学校、家庭、地域の連携・協力と読書環境を豊かにすることとの関係を再度問い直す取り組みです。第三次計画では、多様な読書活動を進める学校の増加や中高生対象の書評合戦の実施など、読書活動の活性化という点で一定の成果が見られました。

しかし、読書環境の基盤、すそ野を広く豊かにするためには、まず家庭での読書生活を振り返り、本を介して家族の絆を深めるブックスタートや「家読」などの位置づけが重要になります。

その上で、学校図書館や地域の協力のもと、市町村独自の活動の支援、子ども司書養成講座の育成、読書ボランティア団体のネットワークづくり等の財政的支援やそれ

らの事業化に向けた取り組みが課題です。イベントの開催だけでなく、読書環境のすそ野を広げ深めるための人材育成の研修内容の充実や広報活動面の強化も欠かせません。

先日の新聞に、建築家の安藤忠雄氏が大阪の中之島に続いて、「こどもの本の森 遠野」を岩手の遠野市にも開館するとの記事がありました。古民家を生かし、本を介して親子子どもたちのふれ合いの場を多面的に創りたいという熱い思いが伝わってきましたが、成長の早い段階で本と出会うことの意義や家庭を含めた読書環境のあり方に関わる大事な問題が提起されているように思われます。



### 高野 保夫 氏 プロフィール

1989年	福島大学教育学部教授
1997年	福島大学教育学部教育学部附属 教育実践総合センター長
2009年	福島大学名誉教授
2013年～	伊達市教育委員会教育委員長
2018年～	伊達市教育委員会教育長職務代理者
●専門	国語科教育学 教育実践学
●著書	『国語科教育学の成果と展望』（共編著, 明治図書）『21世紀の教師教育を考 える』（共編著,八潮社）ほか

# 輝け 社会教育

令和2年度社会教育功労者文部科学大臣表彰

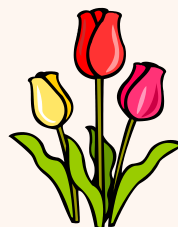
## 社会教育功労者文部科学大臣表彰を受賞して

南会津町社会教育委員の会議 議長 猪股 純一 氏（南会津町）

この度栄誉ある文部科学大臣表彰を賜り、身に余る光栄に浴し、身の引き締まる思いをいたしております。

思い起こせば三十代半ばよりスポーツ少年団等の子供たちに陸上競技を指導して参りました。指導にあたって今でも大切なことと考えているのは、競技力の向上はもとより子供たちの健全育成のため、指導者と子供たちと個々のコミュニケーションを図りながら人間関係を構築することが大変重要であり、様々な問題を抱えた子供たちの情報を学校の先生方とどうすれば共有できるかという点でした。PTA役員として小中学校にかかわっている時以外はなかなか難しい問題でした。また二十年程前に総合型スポーツクラブ創設にかかわった際、自分たちが競技者であると同時に、地域の社会体育の推進のための組織作りに苦慮したことなどが思い出されます。

今、南会津地域等は少子化に伴い中学校によっては子供たちが自分の望む部活動ができない状況が起きております。このような状況の受け皿としての社会体育はどうあるべきかなど、その果たすべき役割は今後ますます大きなものになっていくのではないのでしょうか。与えられた時間、地域の社会教育発展のため努力していきたいと思っております。



令和2年度社会教育功労者文部科学大臣表彰

## 社会教育功労者文部科学大臣表彰を受賞して

福島県立美術館名誉館長 酒井 哲朗 氏（伊達市）

受賞大変光栄です。福島県立美術館館長として、2000年4月から2012年3月まで12年間在任しました。地域に根ざし、県民に親しまれる、開かれた美術館をめざし、まず戸浪正孝副館長とともに「友の会」を創設しました。丹治孝子会長を中心に活発に多彩な活動を展開し、有事には美術館の事業を補助する有難い存在です。美術館に随伴するこのボランティア活動は、それ自体ひとつの市民文化といえましょう。

次いで山田修平副館長とともに、支援組織の「協力会」を立ち上げました。当時福島民報社長の花田勲氏の尽力により、県内マスコミ、銀行などのトップの方々が中心となる理事会ができ、力強い支援を受けています。なかでも、震災時に各方面からの助成の窓口となり、その財政的支援によってさまざまな活動ができたことがうれしい思い出です。

美術館が文化的・社会的役割を十分果たすため、その活動の基幹となるのは学芸能力です。企画展、作品収集などを通じて、学芸員諸君の資質や専門的能力向上の後押しをし、あるいは陣頭指揮に当たってきました。今後この人たちが、福島県立美術館の「サステナビリティ」の支えになってくれることを期待しています。



# 輝け 社会教育

令和2年度優良公民館文部科学大臣表彰

## 会津若松市湊公民館の活動紹介

会津若松市湊公民館

湊町は中山間地域に所在し、農業を主な産業としている地域です。

湖や山林等の自然に恵まれていますが、人口減少と高齢化が進む現状を打開し、地区の活性化を図ることを目的に事業を進めています。



1 地域産業振興、地域の魅力再発見の講座の開催

地域産業の振興のため「竹細工の先進地」視察や「白虎隊奮戦の地」「山城巡り」など地域の歴史・自然資産を再発見する事業を進めています。

### 2 地域学校協働本部事業

平成28年度に地域学校協働本部事業を開始して、平成30年度には「放課後子ども教室」を加えて事業を進めています。

毎月定例日に学校で地域住民がボランティア活動を行うとともに、長期休業期間中に地区の高校

生や大学生を講師とした「子ども学習会」を開催し、地域の名人による授業補助が行われております。さらに学校側からも児童生徒が地域イベントに参加する地域貢献が生まれています。

昨年4月にはコロナ禍によるマスク不足に対応して地域住民の手づくりマスクが学校と保育園に届けられました。

### 3 地域団体との連携

地域の活性化を目的に設立された「非営利活動法人みんなと湊まちづくりネットワーク」と連携して各種イベントを開催し、交流人口の増加と住民の意識高揚に努めています。



令和2年度優良公民館文部科学大臣表彰

## 福島市吉井田学習センターの活動紹介

福島市吉井田学習センター

吉井田学習センターは、10年連続水質日本一の荒川右岸に位置し、豊かな自然環境に恵まれた、地域の憩いの場となっています。

豊かな自然を有する反面、大雨時の洪水等「あばれ川」の別名をもつ荒川を背にした吉井田地区は昔から災害の危険にさらされてきました。こうした地域の風土と東日本大震災を教訓に防災ニーズが高まり、平成28年度からの「防災」をテーマとした「夏休み防災キャンプ」につながりました。

この「夏休み防災キャンプ」は、災害に対する備えを具現化するため、当初は青少年健全育成推進会和連携し、学習センターがファシリテーター（調整役）となって、小学生を対象に学習セン



ターを避難所に見立てた「避難生活体験型」としてスタートしました。



事業を継続する中で、青少年健全育成推進会、地区内の関係団体、行政機関、防災士が連携・協働する小さな関係づくりから「つながる基盤」

のネットワークが形成されました。所属の構成員が変わっても課題解決に向けた継続的な取組が確立され、新たな事業「減災バスツアー」へと発展し、地域住民の防災・減災意識の向上につながっています。

今後も「つどう」「まなぶ」「むすぶ」場としての公民館の基本的な機能を高めながら、「地域の力を育む社会教育の推進」を目標に社会教育の向上を目指していききたいと思えます。

# 輝け 社会教育

令和2年度優良PTA文部科学大臣表彰

## 中郷小学校父母と教師の会の活動紹介

中郷小学校父母と教師の会（三春町）

「優良PTA文部科学大臣表彰」を受賞できましたことは、ひとえに、本会の設立から現在に至る長年に渡り携わっていただいた先生方、保護者や地域の方々の御尽力によるものと、衷心より感謝いたしております。

本校父母と教師の会は、本部三役会と2つの専門員会（すこやか委員会、さわやか委員会）で組織され、会員数の減少に合わせ、地区の連絡調整を行う方部委員と各学年のとりまとめ役となる学年委員が専門委員を兼務するという組織づくりをしています。主な活動では、「すこやか委員会」が危険箇所マップの作成や年2回



の奉仕作業の実施、親子レクリエーションの開催、「さわやか委員会」が会報「なかさと」の発行を行っています。

これらの活動に加え、国の天然記念物「滝桜」が学区にあり、桜で囲まれている本校では、昭和57年から地域の協力を得て



「滝桜を守る会」の活動に児童が取り組むとともに、PTAと同窓会が協力して桜の剪定作業を行っています。また、子どもの生活・学習習慣の定着標語を地域からも募集して「なかさとっ子キャッチフレーズ」を作成し、幼稚園や公民館等にも協力いただき、学校・家庭・地域が連携した取組を実践しています。

今後も学校と家庭・地域の連携を図り、児童の心身の健やかな成長に資するよう、PTA活動の充実・発展に努めてまいります。

令和2年度優良PTA文部科学大臣表彰

## 朝日小学校父母と教師の会の活動紹介

朝日小学校父母と教師の会（只見町）

この度、栄えある「優良PTA文部科学大臣表彰」を受賞できましたこと、大変光栄なことと感謝しております。

本校の父母と教師の会は、本部役員、地区ごとの支部役員、学年委員、これらを兼ねる形で、教養・厚生・校外生活の専門委員で構成されており、PTA諸活動の際には、ほぼ全会員が参加する等、意欲的・積極的に活動を推進しています。

教養委員会では、PTAだより、児童・保護者・教職員による文集「会報あさひ」の作成を中心に、広報活動の充実に努めています。校外生活委員会



では、危険箇所点検や立て看板設置を行い、児童が安全に生活を送ることができるよう活動しています。



厚生委員会では、体育的行事の運営協力や奉仕作業の運営に取り組んでいます。特色ある活動の1つ「スキー」の学習においては、域外出身の教員が多いことから、厚生委員が中心となり、指導者としての協力や記録会の運営をサポートしております。さらに、PTAが主体となって読書活動の推進に力を入れ、本を通じて親子のコミュニケーションが深められるよう、全家庭において「家読」に取り組んでいます。

今後も、学校と保護者が双方向に連携・協働し、さらなる教育の充実を目指して参ります。

# 輝け 社会教育

令和2年度優良PTA文部科学大臣表彰

## 白河市立小田川幼稚園PTAの活動紹介

白河市立小田川幼稚園PTA

本園のPTAでは、長年にわたり「絵本の読み聞かせボランティア活動」をはじめ、「エコキャップ運動」「親子ふれあい会の実施」などPTAが中心になって意欲的に取り組んでおります。

現在は園児数が減ったこともあり、「絵本の読み聞かせボランティア」にあたっては、全員がボランティアとして関わり、お母さんだけでなくお父さんの参加も見られました。子ども達もお家の方が読み聞かせに来てくれることを楽しみにする姿が見られていました。



「エコキャップ運動」は年3回学期末に回収を呼びかけて、各家庭で集めたペットボトルキャップのリサイクル活動を以前から行っています。この取り組みがボランティア活動につながっていることを、子ども達は幼いながらも感じる事が

出来ているようです。

「親子ふれあい会」は、親子でミニ運動会を楽しんだり、親子で製作した工作で競争を楽しんだりという楽しいイベントをPTAが企画や準備を行い、当日の運営もPTAが中心となって取り組んでおります。



今年度はコロナ禍ではありましたが、感染予防に努めながら会員の協力により、子ども達にとっても保護者にとっても楽しい思い出作りが出来ました。

今年度優良PTA文部科学大臣表彰を受賞することが出来ましたが、長年に亘るPTA活動によるものと思っております。今後も力を合わせて努力していきたいと思っております。

令和2年度「地域学校協働活動」推進に係る文部科学大臣表彰

## 天栄村地域学校協働本部の活動紹介

天栄村地域学校協働本部

本村では、平成29年度より県のモデル地区として県の委託を受け、本事業を推進してまいりました。学校支援活動では、学校の要望に地域ボランティアを派遣し、部活動支援と併せて教員の多忙化解消を図って参りました。放課後子ども教室事業では、地域ボランティアの協力により安全な放課後の居場所づくりをするとともに、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により実施できませんでしたが、村内のスポーツ団体との交流事業を実施し、世代を超えた地域での交流にも取り組んでおります。地域と学校との協働活動におい



ては、村内中学生によるARガイドマップの作成に取り組み、中学生が実際に地域の飲食店を取材することで、地域の魅力を再



認識する機会となり、ふるさと教育として大変有意義なものとなりました。

また、「英語の村てんえい」の実現を目指し、幼児から大人までを対象とした英会話教室を開催し、地域人材と一緒に学べる機会を提供することで、共に学ぶ村づくりにも取り組んでいます。

今回の受賞に際し、事業推進にご協力いただきました多くの方々に、心より御礼申し上げます。今後とも、地域・学校・家庭との連携・協働を図り、地域学校協働活動事業の推進及び地域コミュニティの活性につなげていきたいと思っております。



# 輝け 社会教育

令和2年度「地域学校協働活動」推進に係る文部科学大臣表彰

## 大戸地域学校協働本部の活動紹介

大戸地域学校協働本部（会津若松市）

この度、大戸地域学校協働本部の活動が、文部科学大臣表彰を受賞いたしましたことは、大変光栄なことと考えております。

御支援いただいた関係者の皆様、なにより、学校と地域の皆様の御理解御協力に、あらためて感謝と御礼を申し上げます。



組んできました。

放課後子ども教室は、地域学校協働活動推進員や安全管理員、活動指導員などを地域の皆様に担っていただき、地域の大人の指導と見守りのもとに実施しています。各種レクリエーションなどの

当地域においては、「大戸地域学校協働本部」を平成30年4月に設置し、主に放課後子ども教室と地域学校協働活動に取り

放課後活動を基本としながら、夏休みには、模型づくりや英会話、パソコン教室などに組み込まれました。

また、地域学校協働活動は、地域住民が担う地域学校協働活動推進員を中心に、毎月全戸配布する公民館報で協力を呼びかけ、地域のボランティアの協力のもとに実施しております。大戸の豊かな自然と触れ合う「田植え」や「稲刈り」「川あそび」、地域の高齢者から学ぶ「昔あそび」や「だんごさし」、「遠足の見守り」等に取り組みました。令和2年度は、感染症防止対策のため、事業の中止や縮小が続いておりますが、この度の受賞を大きな励みとし、今後の活動の更なる充実に努めてまいりたいと存じます。この度は、誠にありがとうございました。



令和2年度子供の読書活動優秀実践校・図書館・団体（個人）の文部科学大臣表彰

## 泉崎図書館の活動紹介

泉崎図書館

この度、令和2年度の文部科学大臣表彰を受賞することができましたのは、ひとえに当館の読書活動推進事業にご協力いただきました多くの皆様、そして当館をご利用いただいている地域の皆様のおかげであると職員一同、心より感謝いたします。

また、泉崎図書館は平成22年12月に開館し、ちょうど開館10年目という節目の年にこのような賞を受賞できたこと本当に嬉しく思います。

泉崎図書館は、既存の施設泉崎資料館の中に併設されました。開館当初は、蔵書数もおおよそ5000冊と少ないなか開館しました。

現在ではおおよそ43000冊と大幅に蔵書数も増え、地域の皆様に快適にご利用いただけるようになりました。



小さい図書館だからこそできるフットワークの軽さを武器に様々な活動に取り組んできました。村内の保育所、幼小中の図書館見学受け入れをはじめ、小中学校の各クラスに月一回のペースでの学級文庫の貸し出し、二つの小学校を訪問しての読み聞かせ、学校図書館の支援、未就学児にむけてのおはなし会やブックスタート、図書館でのおはなし会、定期的な読書案内や図書館だよりの発行やテーマに沿った本の展示コーナー、各種特別講座、年末年始には本の福袋など、あらゆる世代の方々に楽しんでいただけるような図書館を目指して活動しています。

現在は利用休止していますが、泉崎図書館独自の「手作りバック」の貸し出しなども大変好評でした。これからも地域の皆様の憩いの場や学びの場となるような図書館を目指していきたいと考えています。



# 輝け 社会教育

## 令和2年度子供の読書活動優秀実践校・図書館・団体（個人）の文部科学大臣表彰 朗読劇サークル「アグリーダックス」の活動紹介

朗読劇サークル「アグリーダックス」（会津若松市）

当団体は平成15年に設立され、県立葵高等学校からライブラリー事業参加の依頼を機に本格的に活動を開始しました。会津若松市における自主サークルや公民館事業での公演活動に加え、幼・保・こども園、小・中・高等学校・企業へと読書活動を推進し、17年目を迎えました。現在は3名とサポーター数名で、背景画をスクリーンで映し出し、さらにヴァイオリンやオカリナ等の楽器の生演奏による効果音を取り入れ、臨場感が出るように試行錯誤を重ねながら朗読劇をしています。



毎年4月～12月の公演活動に向け、1月～3

月までは制作活動として、台本作りの勉強会、効果音・背景作り、発声練習に励みます。子どもたちから届いた「本だけではわからなかったけど、朗読劇でよく分かった。」「一度読んだことがある本なのに、朗読と音楽の効果でなぜか涙が出ました。また来てください。」等の手紙に元気をもらっています。さらに、公演での読み手と演奏者と子ども達が一体となる時間も活動の一層の励みになっています。朗読劇を通して、平和の尊さや人間の素晴らしさ、そして日本文学の素晴らしさを伝えるために今後も努力をしていきたいと思えます。これまでの経験と仲間、そして今回の「文部科学大臣表彰」受賞は大きな財産です。



## 「写真館」

令和2年度の社会教育関係事業の様子を掲載します。



ふくしまを十七字で奏でよう絆ふれあい支援事業



チャレンジ！子どもがらみだす体験活動応援事業



ビブリオバトル福島県大会



読書活動支援者育成事業地区別研修



家庭教育応援企業による中学生への講話



親子の学び応援講座

## 令和2年度 社会教育関係各種表彰受賞

表彰区分	被表彰者氏名・団体名	受賞月日	表彰者
社会教育功労者	南会津地区社会教育委員連絡協議会会長 猪股 純一 氏 (南会津町) 福島県立美術館名誉館長 酒井 哲朗 氏 (伊達市) 国立磐梯青少年の交流の家外部指導員 飯田 悟 氏 (会津若松市) 国立那須甲子青少年自然の家研修指導員 三村 正 氏 (西郷村)	2月26日	文部科学大臣
優良公民館	会津若松市湊公民館 福島市吉井田学習センター	2月25日	文部科学大臣
優良PTA	中郷小学校父母と教師の会 (三春町) 朝日小学校父母と教師の会 (只見町) 白河市立小田川幼稚園PTA	11月27日	文部科学大臣
地域学校協働活動	天栄村地域学校協働本部 大戸地域学校協働本部 (会津若松市)	12月15日	文部科学大臣
子供の読書活動優秀実践図書館・団体(個人)	【図書館】 泉崎図書館 【団体】 朗読劇サークル アグリーダックス (会津若松市)	4月23日	文部科学大臣
社会教育功労者	県家庭教育インストラクター理事 星 尚子 氏 ボーイスカウト福島連盟 名誉会議議員 長谷川 哲意 氏 会津若松市社会教育委員 小野 修 氏	11月2日	福島県教育委員会
功績顕著な団体・施設	【団体】 田村市立都路小学校父母と先生の会 喜多方市立堂島小学校父母と教師の会 南会津町立荒海中学校父母と教師の会 【施設】 福島市中央学習センター 郡山市立薫地域公民館 郡山市立名倉地域公民館	11月2日	福島県教育委員会
全国社会教育委員連合	東白川地区社会教育員連絡協議会 金澤 幸子 氏 いわき地区社会教育委員連絡協議会 佐久間 静子 氏	9月15日	(一社)全国社会教育委員連合
日本PTA全国協議会	【団体】 福島市立御山小学校父母と教師の会 二本松市立東和小学校PTA 【個人】 前福島県PTA連合会会長 成澤 勝蔵 氏 前福島県PTA連合会副会長 野田 誠 氏 前福島県PTA連合会副会長 小林 裕子 氏	11月27日	(公社)日本PTA全国協議会
東北地区社会教育委員連絡協議会	安田 節子 (国見町) 馬場 政之 (昭和村) 大須賀 昇 (新地町) 江井 俊雄 (双葉町) 佐藤 妙子 (いわき市)	8月31日	東北地区社会教育委員連絡協議会

## 令和3年度 福島県社会教育施設行事予定

福島県立図書館	福島県立美術館	福島県立博物館	福島県自然の家
○ふくしまを知る連続講座と関連展示 ①福島県文化財センター白河館学芸員による講座(6月) 「ようこそ 古墳時代へ!」 関連展示 6月4日(金)~6月30日(水) ②福島県歴史資料館学芸員による講座(10月) 「江戸・明治の習い事」(仮題) 関連展示 10月8日(金)~11月3日(水)	○ミネアポリス美術館 日本絵画名作展 7/8(木)~9/5(日) ○THEドラえもん展 FUKUSHIMA2021 9/23(木・祝)~11/23(火・祝) ○「瀬戸正人 記憶の地図」 12/4(土)~令和4年1/30(日) ○福島の若手2022展(仮称) 令和4年2/8(火)~3/6(日) ○岩合光昭展 令和4年3/19(土)~5/22(日)	○会津の絵画 4/24(土)~6/27(日) ○あはひのクニ あやかしのクニ ~福島・東北の妖怪・幽霊・怪異~ 7/17(土)~9/5(日) ○ふくしまのわら文化 9/18(土)~11/28(日)	○郡山自然の家 春のオープンデー5/30(日) ○会津自然の家 春のオープンデー5/30(日) ○いわき海浜自然の家 春のオープンデー5/16(日) ※その他詳しくは、各自然の家のホームページをご覧ください。

### 編集後記

昨年より続くコロナ禍において、私達の生活の中に制約や制限が設けられた「新しい生活様式」が取り入れられました。社会教育においてもその影響を受けながら、その中で、十分な感染対策やリモート等の新しい方法を用いて、各所で歩みを止めない実践が工夫されました。今年度の取り組みから、コロナ禍だからこそ、社会教育に求められ、そしてできると感じました。その一つに、今回特集しました「読書」による学びがあります。読書の持つ、豊かな想像力の育成や癒やし、また本を通じた交流による物語の深い理解等。今後も制限された生活は継続されますが、社会教育のさらなる可能性を広げて行けるよう、福島県社会教育を推進して参ります。

最後に、日々御活躍されている方々から、お忙しい中、第341号「社会教育」に御執筆をいただきましたことに対し、心から感謝申し上げますとともに、読者の皆様がそれぞれの地域や立場でより一層御活躍されることをお祈りいたします。



令和3年3月吉日発行  
社会教育 No. 341  
編集 社会教育課  
発行 福島県教育委員会  
福島市杉妻町 2-16